



平成21年度 国営越後丘陵公園事務所 事業計画の概要



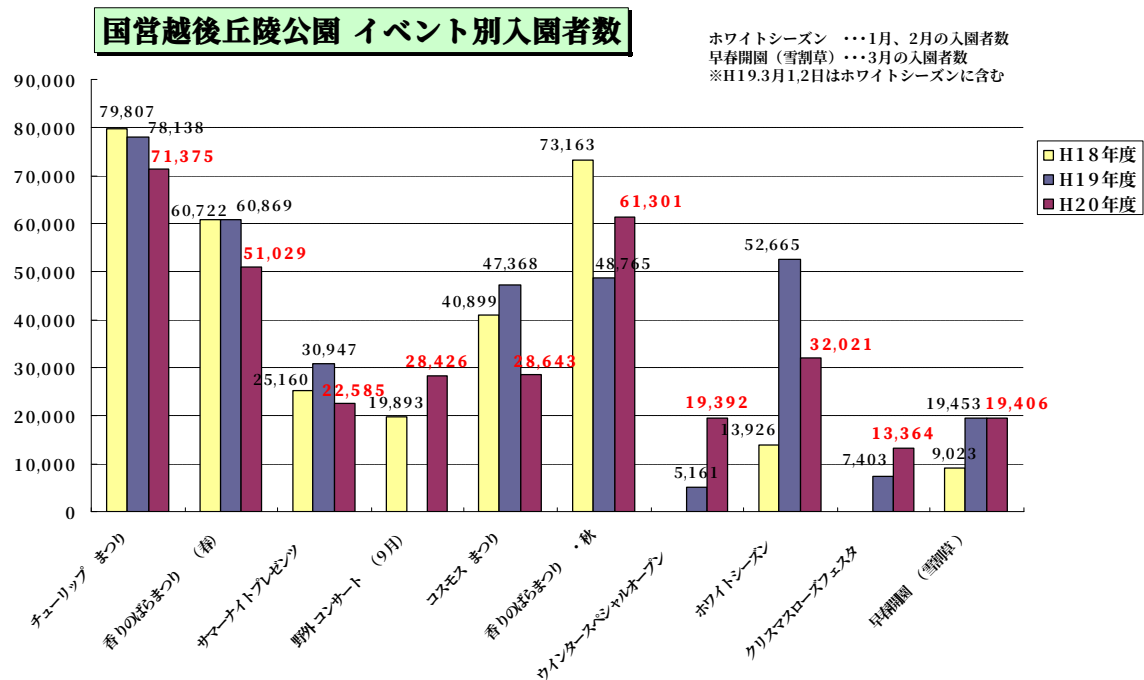
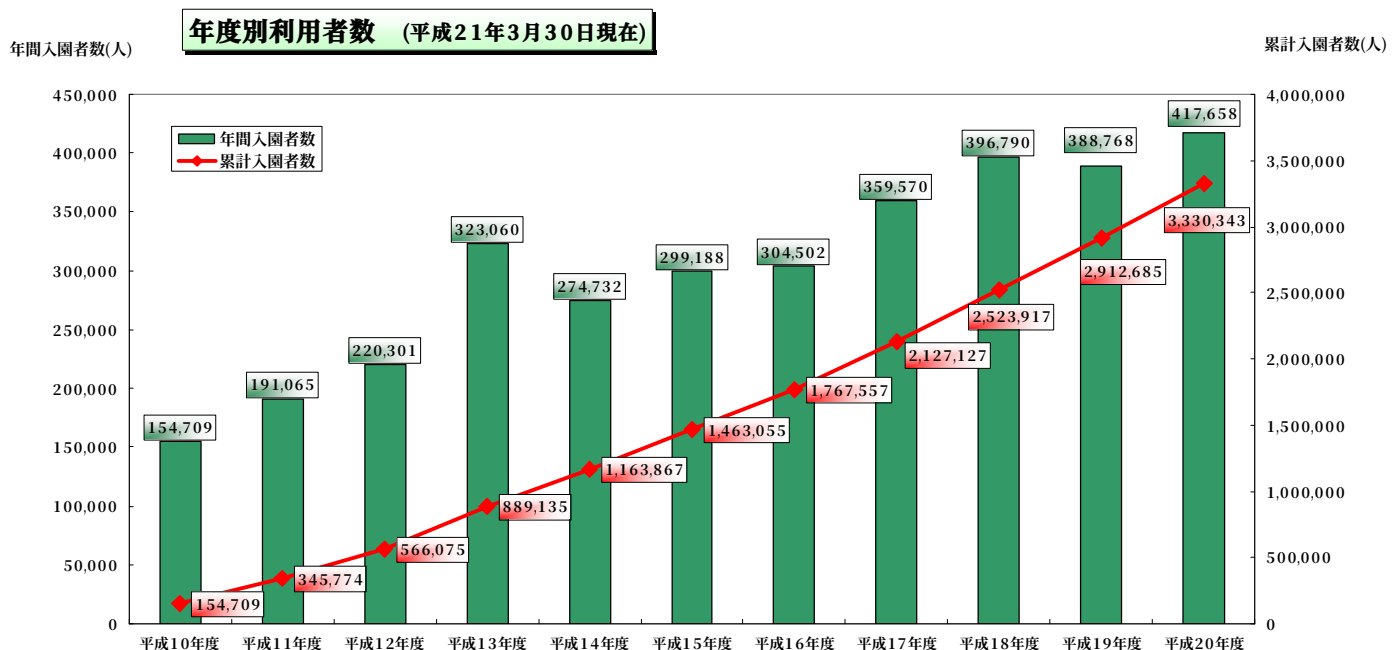
1. 平成20年度の公園利用状況

●平成20年度入園者数は417,658人（平成19年度に比べ28,890人増）

- ・平成10年7月30日の開園から10周年を迎え、累計入園者数が5月13日に300万人を突破
年間入園者数も、初めて40万人の大台を記録

●平成20年度に実施した主なイベント

- ・第10回国際バラとガーデニングショウに越後丘陵公園ブースを設置し、「香りのぼら園」のPRを実施
- ・国営公園における高齢者福祉の一環としてシルバー料金導入の社会実験を実施
- ・2年ぶりとなる、3万人規模の野外ライブを開催
- ・「第2回国際香りのぼら新品種コンクール」の開催
- ・”ぼらと草花のエリア”のオープンに先駆け市民参加の記念植栽イベントを開催
- ・20年度より12月を通常開園し、ウインターイルミネーションを定例イベントとして開催



2. 平成21年度の事業費

●平成21年度事業費

1,742百万円（H20年度との比較0.95）

3. 平成21年度の利用促進計画

- 草花観察や里山の環境学習など利用者が見込める、春（4,5月）秋（10,11月）に南口ゲートを試行的にオープンし、里山フィールドミュージアムの利用促進をはかる

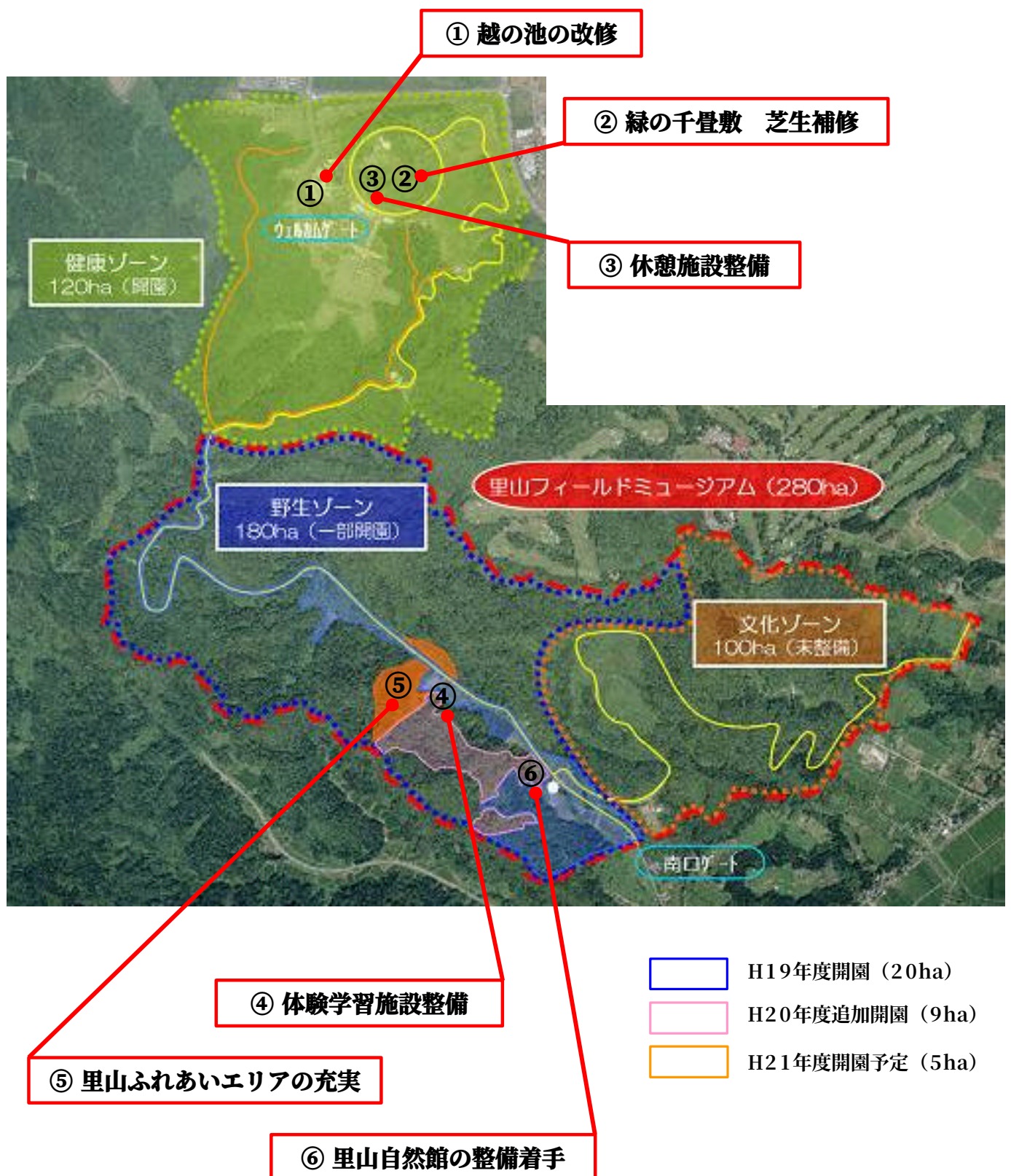
●花による利用促進

- ①「ばらと草花のエリア」オープンにより、香りのばら園の利用促進をはかる
- ②「香りのばら園」の全国ブランド化
- ③「花」「観光」をテーマにした地域との連携
 - ・3月に開催している「雪割草まつり」の期間延長
 - ・「長岡野菜」のPRと花苗生産の地元活用
- ④ラベンダー園の開園に伴い、定例花イベントとして「ラベンダーまつり」を開催し、毎年入園者数が少ない7月の利用促進をはかる

●平日及び冬季の利用促進

- ①里山フィールドミュージアムについて学校、各種団体の積極的誘致及び食体験イベントの開催
- ②雨天時に利用できる屋内遊具施設や、幼児施設の充実
- ③冬季利用の魅力度向上
(好評だったクリスマスエコツリーやウインターイルミネーション開催時の夜間開園、人気だったクリスマスローズまつりなどの屋内イベントの強化)

4. 平成21年度の主要事業



5. 平成21年度の主要事業概要

整備は、整備プログラム（H20～H24）に基づいて整備を進めます。

① 越の池の改修

越の池は、棚田をモチーフとした修景池として平成10年の開園にあわせて整備された後、夏場の水遊びニーズに対応するため、親水機能をもった多目的池として一部改修を行いました。施工後10年を経過し、老朽化による漏水の他、平成16年の中越地震および平成19年の中越沖地震により被災し、施設が一部陥没したり漏水が著しいため、特に漏水が著しい水遊び池、親水池の全面改修を行います。

越の池全面積：16,710㎡

改修面積：10,680㎡（水遊び池、親水池、噴水池） 噴水池、H20年度終了



② 緑の千畳敷 芝生補修

緑の千畳敷は、平成10年の開園にあわせて整備された施設ですが、降雨後一日以上経過しても平地部で滞水しており、芝地が損傷していることから、芝の生育及び施設管理の観点、また、通年化（12月開園）に伴う今後の利便性向上及び利用を促進するため、芝生補修を促進します。

芝生補修面積20,000㎡（H21:10,000㎡を予定）



緑の千畳敷利用状況



緑の千畳敷利用状況

③ 休憩施設整備

健康ゾーンにおいて、真夏の強い日差しや急な降雨の雨除けに、“ふわふわドーム”、“木製遊具”、“緑の千畳敷”で遊ぶ利用者が休憩、避難できる施設の整備に着手します。また、野生ゾーンにおいて、園路拡張により利用者が快適に園路散策ができるよう、休憩施設（バス停兼用）整備を促進します。



夏場の日陰施設利用状況

④ 体験学習施設整備

平成19年度に開園した野生ゾーンの里山ふれあいエリア、里の水辺区は、古民家を中心とした体験学習のできる空間を提供する重要な拠点です。体験学習施設は、食の体験プログラムを実施する施設として整備します。

構造：木造 1階 延べ面積約60m²



古民家で行われた体験教室の様子

⑤ 里山ふれあいエリアの充実

平成19年9月に開園した里山フィールドミュージアムは、里山の自然の姿を楽しみ、草花鑑賞や自然観察等を通じて里山の自然を学習することを目的としています。

特にカタクリやユキツバキの群生をはじめとする里山らしい自然資源が分布し、活用の可能性が高いエリアを中心に平成15年度から整備を行っています。

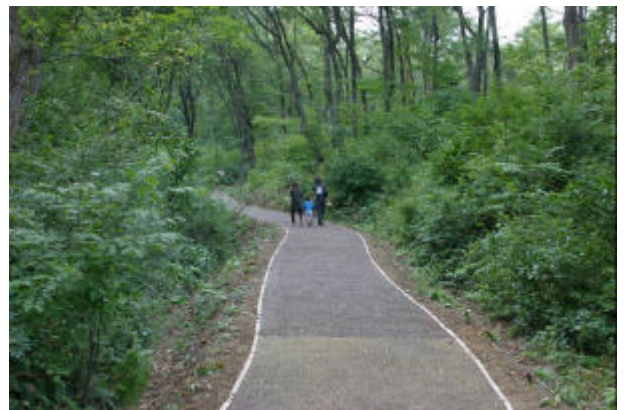
整備面積：里山フィールドミュージアム全体280ha

うち、平成20年度までに29ha開園、平成21年度5ha追加開園予定

全体の主な施設：樹林地の整備、観察園路、四阿、展望デッキ、古民家、駐車場等



カタクリの群生



里山フィールドミュージアムの散策路

⑥ 里山自然館の整備着手

里山フィールドミュージアムにおいて、体験学習や自然観察の拠点施設となる「里山自然館」の整備を行います。里山自然館では、園内で見られるホタルなどの生き物やカタクリなどの花の情報提供を行ったり、ボランティアやNPO等、各種団体の交流や情報交換の場として活用していく予定です。

また、学校等の団体利用時の休憩場所や天候急変の際の避難場所としても利用できます。平成21年度は施設の基礎工事に着手します。

施設規模：約800㎡程度（1階建）

主な施設構成：総合案内、体験学習の受付、里山フィールドに関連する展示施設、トイレなど